



OK たよ

大西勝彦

活動報告

No.78

2020年1月
大府豊幸会
(事務局) 刈谷市宝町8-1
豊田自動織機組合会館est内



大府市議会議員
大西勝彦

令和二年 新春

みなさん、こんにちは。大府市議会議員の**大西勝彦**です。
新しい年を迎え、今年も心新たに議員活動に取り組んでまいります。
今年、**大府市長選挙**(3月22日投票)の年です。私たちの政策を実現できる人に市長になってもらいたいと思います。
12月議会も一般質問に立ちましたのでその概要を報告させていただきます。



12月議会 主な議案

☆ 大府市土砂等の採取及び埋立て等に関する条例の制定

土壌の汚染及び災害の発生を未然に防止するため**必要な規制**を行うことにより、住民の生活環境の保全及び安全の確保に寄与するため、条例を制定しました。

- (適用事業) 面積500㎡以上又は土砂等の体積500㎡以上の土地の埋立て等
- (土地の埋立て等の許可) あらかじめ市長の許可を受けなければならない。
- (許可の基準) 土砂等の性質、汚染の状態が許可基準に適合すること等
- (説明会の開催) 隣接する土地の所有者及び300m以内に居住する住民に対し、説明会を開催しなければならない。
- (土壌の調査) 3か月ごとに土壌の汚染状況を調査し、結果を市長に報告する。
- (報告及び立入検査) 必要な場合、報告及び資料の提出、現場等への立入検査を実施する。
- (罰則等) 改善命令や措置命令に違反した場合、罰則や氏名等の公表がされる。
- (施行期日) 令和2年4月1日



☆ 大府市空家等対策の推進に関する条例の制定

空家等対策の推進に関する特別措置法の施行に必要な事項を定めるとともに、**空家等対策**を総合的かつ計画的に推進するため、条例を制定しました。

- (類似空家等・特定類似空家等) 法では規定されていない空家状態のものを類似空家として規定し、立入調査、指導・勧告・命令ができるようにする。
- (市民・事業者の役割) 法では規定されていない市民や事業者の市の施策への協力等の役割を規定する。
- (緊急安全措置) 危険な状態が切迫している場合、必要な最小限度の緊急安全措置を行う。
- (空家等対策協議会) 空家等対策の推進に関する協議を行うための協議会を設置する。
- (過料) 法に準じて、条例の実効性を担保するため、5万円以下の過料について規定する。
- (施行期日) 令和2年4月1日



トピックス

大西勝彦ホームページ
<http://www.medias.ne.jp/~onishi/>

次期大府市長選挙(3月22日投票)において

岡村ひでと氏(現・大府市長)を推せん決定!



岡村市長(右)と市民の幸せづくりを誓い合う大西

岡村市長は、私たち働く者や生活者の声に耳を傾け、諸施策を進めてくれています。

特にこの4年間では、待機児童解消に向け保育園の拡充など子育て支援にも精力的に取り組んでいます。

次期市長選において、私たち市民クラブ(連合系の会派)も、自信を持って「岡村ひでと」さんを推せんしています。

岡村ひでとさんプロフィール

- 昭和28年4月生まれ
- 昭和53年 京都大学卒業
- 同年 愛知県庁に入庁
- 平成16年 大府市助役
- 平成19年 大府市副市長
- 平成28年 大府市長就任
- 現在 大府市長1期目

中学生平和大使は、全ての中学校から派遣し、各学校で報告会を開催するべき…

(大西)

私は、**大府市平和都市宣言**の中の「平和のバトンを守り、次の世代の子どもたちにしっかりと渡していくこと」が大変重要な**行政や教育の役割**であると思っている。今年度の平和祈念戦没者追悼式でも、平和大使である中学生が口を揃えて訴えていたことは、「**同世代の仲間**に、今回の平和大使で感じたことを伝えていきたい」というものだった。そこで伺います。**中学生平和大使の報告会**を全中学校で実施する考えはあるか。

(鈴置 福祉子ども部長)

中学生平和大使による中学校での報告会の実施については、各学校の判断で、本年度は、中学生を派遣した全ての学校で行っている。



市役所前広場に設置された「平和都市宣言」の石碑

(大西)

今回の中学生平和大使には、**大府南中学校**の生徒がいなかった。中学生平和大使がこの事業で学んだことをより多くの中学生に伝えるためにも、大府市の**全中学校からの参加**が望ましいと考える。大府市の事業として実施する意味においても、全中学校からの参加は当然のことと考える。中学生平和大使を全中学校から派遣する考えはあるか。

(鈴置 福祉子ども部長)

中学生平和大使は、出来ることなら全中学校からの参加が望ましいと考えているので、多くの中学生に応募してもらえるよう、教育委員会を通じて呼びかけていく。毎年、各学校から応募される人数も違うし、市外にある私立中学校に通う生徒からの応募もある。また、参加申込書の「応募の理由」欄に書かれた内容を審査して選考しているため、選考前から、**学校ごとに採用枠を定めての募集は、今のところ考えていない。**

中学生平和大使を平和教育として活かすべき…

(大西)

40年前に書いた私の大学の卒業論文のテーマは「平和のための政治」だった。今、読み返してみると大変稚拙な中味だが、平和に対する思いは熱いものがあつた。その中で、平和を実現するためには平和教育が重要であると訴えている。大府市では、中学生平和大使という事業を展開し始めた。是非、この事業を**平和教育に活用**するべきと考える。そこで伺います。中学生平和大使事業を中学校のカリキュラムの中で平和教育として取り上げる考えはあるか。

(木學 教育部長)

カリキュラムの中に、「中学生平和大使事業」そのものを取り込むことは教育課程時数内では難しい。しかしながら、社会等で扱う内容の時期に合わせて、「中学生平和大使事業」の報告書を紹介するなど、カリキュラムのデザインを多少変更することは可能と考えている。ゲストティーチャー等、体験的な活動を生かすことは、全ての学びに共通して大切なことであるため、生徒が体感したことをカリキュラムに生かすよう、本市**校長会議を通して指導**していく。

平和を切り口とした都市間交流は…？

(大西)

東海市は沖縄市と姉妹都市の関係にある。東海市のように、中学校2年生全員を沖縄に訪問させるべきとまでは言わないが、**沖縄の人たちの平和に対するDNA**を感じることは平和教育にとっても重要だと思っている。そういった機会を創出するためにも、沖縄だけに限らず、平和を切り口とした都市との交流は有効だと考える。平和を切り口とした都市間交流を考えているか。

(岡村 市長)

中学生平和大使事業は、今後も継続していくが、派遣先については、被爆地である広島市や長崎市だけではなく、戦争の悲惨さを肌で感じる事が出来る地域は日本国内のいたる所にあるので、例えば、唯一、地上戦が行われ、一般市民も含めて多くの犠牲者を出した**沖縄県への派遣**についても、現在、検討をしているところである。訪問先では、資料館等の施設見学や戦争体験者の講話、語り部の方との交流を行っていききたいと思う。

中学生平和大使を、さらに効果的な事業に…！

(大西)

最後に、意見を述べさせてもらおう。壇上でも申し上げたが、大府市では、「健康」と「平和」は二大都市宣言だ。市役所前には200万円をかけた石碑もある。それなのに、この中学生平和大使事業に関して、**市長部局と教育委員会とも消極的**だ。もう少し「本腰」をいれて取り組んでもらいたいと思っている。派遣された中学生の「同世代の中学生に伝えたい」という**純粋な気持ち**を無にしてはいけない。平和都市宣言にあるように「平和のバトンを次の世代にしっかりと渡していくことは、大人の責務」である。中学生平和大使事業を続けていくなら、**全中学校から生徒を派遣するべき**である。そして、**報告会**も各学校任せではなく、全学校で同じ形式で実施するべきである。この事業を**大府市独自の平和教育**として位置付けるべきである。こんな思いの議員がいることを、**教育委員のみなさん**に伝えていただくことを強く期待して、私の一般質問を終わる。